

問題 3. 子宮内膜漿液性腺癌

症例：65歳、女性。不正子宮出血。

検体（採取法）：子宮内膜（捺印）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、アポトーシスがみられる。 ○
2. p53がびまん性強陽性を示すことが多い。 ○
3. 主として閉経後に発生する。 ○
4. 転移をきたしやすい。 ○

解説

子宮内膜漿液性腺癌は、発生機序からⅡ型の子宮体癌に分類される。主として閉経後に発生し、転移をきたしやすいことから類内膜癌より予後不良である。形態は、卵巣の漿液性腺癌と同様の組織像および細胞像を示す。組織学的には、高度な異型を示す腫瘍細胞の複雑な乳頭状増殖や芽出(budding)を特徴とする腺癌で(図1)、萎縮した内膜や内膜ポリープより発生すると考えられている。その細胞像は、強い核異型を示す異型腺細胞が軽度から中等度に重積し乳頭状集塊を形成する(図2-4)が、裸核異型腺細胞の出現をみることもある。類内膜腺癌との合併があることより、種々の分化度を伴った類内膜腺癌細胞の出現を同時にみることがある。また砂粒体がみられることがあり、免疫染色ではp53がびまん性に強陽性を示すことが多い。

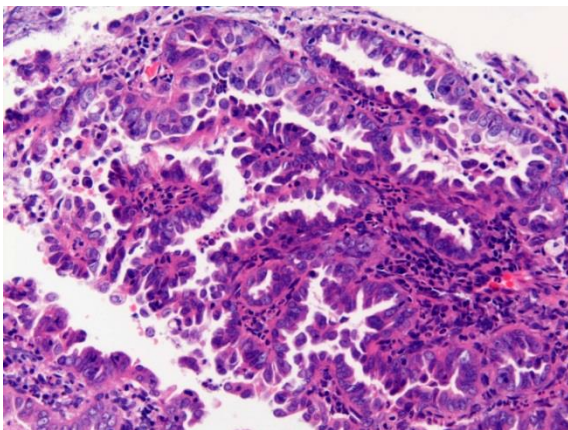


図1 子宮内膜漿液性腺癌の組織像

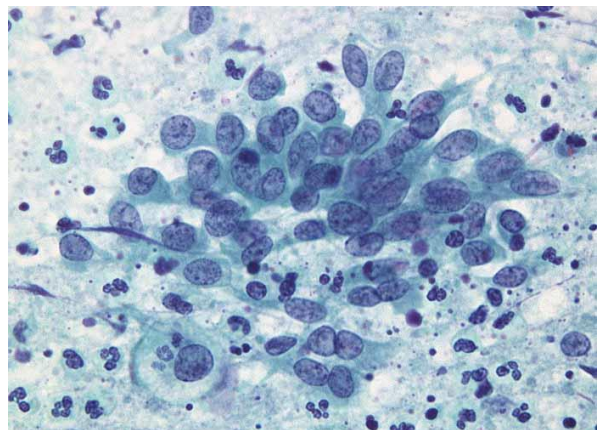


図2 異型細胞とアポトーシス

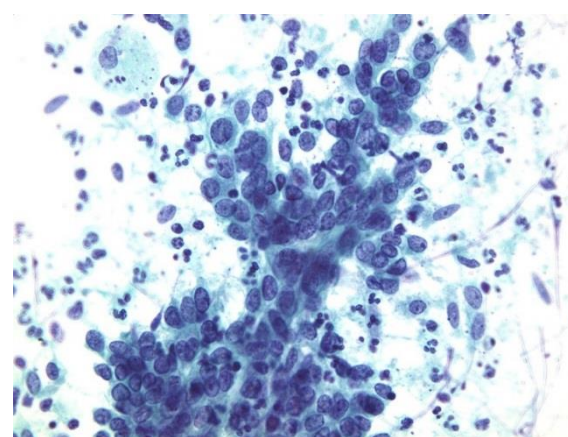


図3 異型細胞の乳頭状集塊

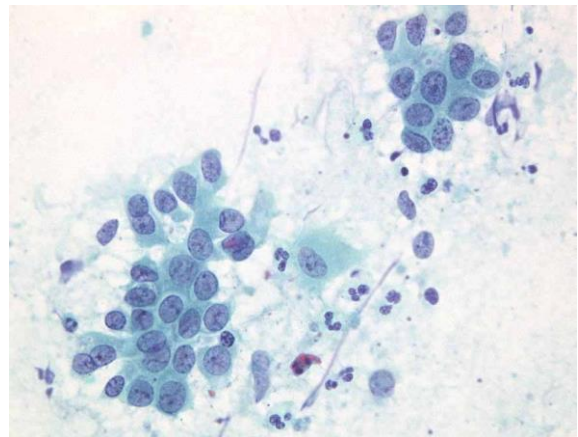


図4 異型細胞の小集塊